

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



ふるさと名物

Furusato Meibutsu

わが市町村の
ふるさと名物は
これ!

岩手県平泉町
が応援するふるさと名物

◎郷土の文化と食
～歴史と伝統を今に紡ぐ
『世界遺産 平泉』藤原八百年～





ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

令和元年9月26日

地域の
プロフィール

平泉町は、岩手県の南部に位置し、東には西行法師や松尾芭蕉が讃えた桜の森の東稲山、町の中央を流れる北上川の流域には田園地帯が広がり、水と緑の豊かな自然に彩られたまちです。

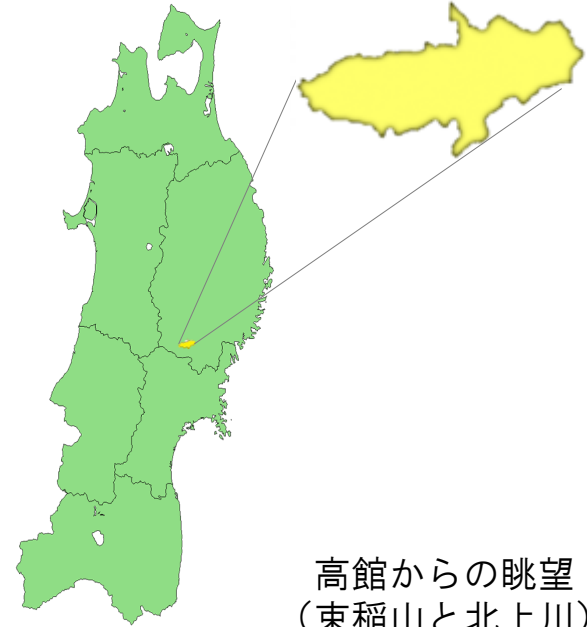
平安時代末期に奥州藤原氏が四代にわたって創り上げた地方都市である平泉は当時、京都に次ぐ約10万人の人口がいたと伝えられています。

町の中心部には、中尊寺、毛越寺、観自在王院跡、無量光院跡や金鶏山などの歴史的価値の高い史跡・名勝が点在し、平成23年6月には「平泉－仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群－」として世界文化遺産に登録されました。

世界文化遺産を中心とした観光産業は、農業や商工業をはじめとするその他の産業と密接に結び付き、地域の発展を支える核としての役割を果たしており、平泉ブランドを活かした米やりんごなど、高品質な特産品の開発が展開されています。

また、奥州藤原氏が唱えた「浄土思想」は世界に誇る平和思想であり、「浄土のまち平泉」プロジェクトとして、各種行事や教育を通して町内外に発信され、世代を超えて受け継がれています。

岩手県平泉町



高館からの眺望
(東稲山と北上川)



ふるさと名物の内容

◆ 秀衡塗

平泉に栄華を極め、中尊寺金色堂をはじめとする仏教美術をこの地にもたらした奥州藤原氏にその起源を発しています。

藤原氏三代秀衡が京都から漆器職人を呼び寄せたとされ、中尊寺周辺には古くから「秀衡椀」とよばれる源氏雲に菱形の金箔で有職菱紋を施した図柄が特徴のお椀が伝わっています。

この地方は、漆と金の産地でもあったことから、金箔を用いた造りが受け継がれ、世界文化遺産の構成資産の一つである中尊寺金色堂は建物全体に漆塗りと金箔を施し、他には例を見ない漆芸技法の粋をつくした建造物と言われています。

現在では古代椀の復元・再現のみならず、伝統的な技法を活かしながら、モダンでスタイリッシュなデザインの漆器や多様な業種とのコラボレーションによるオリジナル作品の製作が展開されています。



ふるさと名物の内容

◆ 中尊寺

12世紀のはじめに藤原氏初代清衡公によって大規模な堂塔造営が行われました。

それは11世紀後半に東北地方で続いた戦乱で亡くなった者の霊を敵味方の区別なく慰め、仏国土（仏の教えによる平和な理想社会）を建設するというもので、戦乱で父や妻子を失い、骨肉の争いを余儀なくされた清衡公の非戦の決意ともいわれています。

中でも中尊寺金色堂は、当時の優れた工芸技術が存分に施された優雅な装飾と金色の輝きを放つその外観から、浄土思想の象徴的な建物となっています。



◆ 毛越寺

慈覚大師円仁が開山し、藤原氏二代基衡から三代秀衡の時代に多くの伽藍が造営されました。往時には堂塔40僧坊500を数え、中尊寺を凌ぐほどの規模と華麗さであったといわれています。

奥州藤原氏滅亡後、度重なる災禍に遭いすべての建物が焼失しましたが、大泉が池を中心とする浄土庭園と平安時代の伽藍遺構は現在もほぼ完全な状態で保存されており、国の特別史跡・特別名勝の二重の指定を受けています。

ふるさと名物の内容

◆ もち食

平泉町、そして隣接する一関市では、約400年前に当時の伊達藩が地域の平安息災を祈り、毎月もちを神仏に供える習わしを推奨したことがきっかけで「もち食文化」が発祥しました。

武家社会の儀礼から生まれた「もち本膳」に加え、旬の農産物を活かした多彩なもちの具が創作され、そのバリエーションはおよそ300種とも言われています。

豊かな米の生産地域であることを背景として、冠婚葬祭や季節の節目など、現在でも「もち食」と地域の生活は密接に結び付いており、平成28年には農林水産省から「SAVOR JAPAN（農泊 食文化海外発信地域）」として認定を受けています。

◆ りんご

平泉の世界遺産を望む東稻山麓は、北上川の水と肥沃な土地、そして寒暖差の大きい土地柄を活かした農業地帯として、古都・平泉の繁栄を支えてきました。

現在では、味・色ともに優れた高品質のりんごが生産され、果汁100%ジュース、爽やかな味が特徴のシードルや菓子など、りんごの加工品も多く展開されています。

◆ いわて南牛

平泉町のほか、隣接する一関市で最長期間飼養された黒毛和牛です。

繁殖から肥育まで地域内で一貫生産されることで、ストレスの少ない理想的な条件下で育まれています。四季折々に恵まれた自然の中で仔牛から育てられた「いわて南牛」の枝肉全体に入った美しいサシ（霜降り）は、和牛本来の肉質に優れ、風味が豊かなことから、各方面で高い評価を得ています。

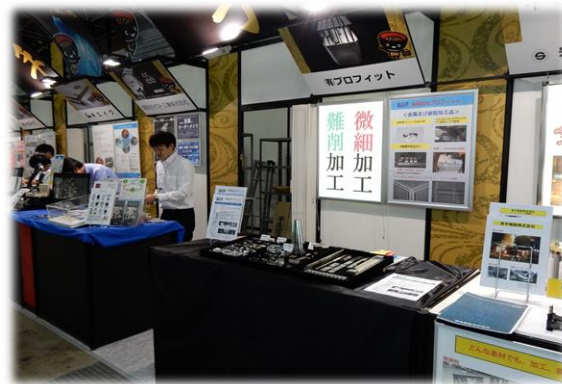


町の取り組み

◆ 取引支援促進事業

町内の事業者が自社製品及び自社の特殊技術等を積極的に情報発信するため、県外で開催される展示会への出展に要する経費に対して補助金を交付しています。

販路拡大や市場開拓のための事業活動を支援することで、事業者の経営基盤の強化と地域経済の活性化に取り組んでいます。



◆ 特産品開発支援事業

「平泉」の名を冠した新たな特産品の開発及びその販売を促進する事業に要する経費について補助金を交付しています。

町内で生産、加工及び製造されたものを対象として、事業者の技術を活かした特産品の開発を幅広く支援し、事業活動の活性化とともに町の観光振興を促進します。



◆ 6次産業化促進支援事業

町内で生産される農畜産物を有効に活用し、新たな加工品の商品開発、加工施設の整備及び販路開拓など、地域資源を活用した6次産業化を推進する事業に要する経費に対して補助金を交付することで、農商工の連携や地産地消の取り組みを推進し、当町の基幹産業の一つである農業を中心とした産業振興を図ります。



◆ 平泉きらめきごはん大作戦（地産地消店等の認定）

平泉町産の農林水産物・畜産物・これらを使った加工品を積極的に販売・活用するお店、農林漁業者、給食実施施設などの地産地消を推進する方々を「平泉きらめきごはん推進店」等として認定しています。

この認定により、平泉町産農産物の消費拡大、町民の意識向上、地域農業の活性化に取り組み、町内の「食」に携わる組織が一体となり、町民と平泉町を訪れる方に、より良い食の環境を届ける仕組みの創造を目指しています。

◆ 地域特産品販売促進支援事業

町内産農産物を活用した加工品について、道の駅直売施設及び町内外の消費者への普及及び販路開拓のため、広告宣伝物を製作する事業に補助金を交付し、商品の発信力を高めることによって、町外産品との差別化と競争力の強化を図り、地域特産品の販売促進及び生産拡大を推進します。



「平泉の いっとうん」
一音の覃ぶ所千界を限らず。
抜苦與樂 普く皆平等なり。

平泉町農産物
加工品
販売促進
支援事業

関連するイベント

◆ 藤原まつり

「春（5月）」と「秋（11月）」の年2回に渡って開催される奥州藤原氏ゆかりのお祭りです。「春」は、初日の稚児行列や源義経公東下り行列、最終日の弁慶力餅競技大会、延年の舞など多彩な催しが行われます。

また「秋」には、境内が鮮やかな紅葉に包まれる中、中尊寺での稚児行列や能公演、毛越寺では延年の舞、郷土芸能などの催しが開催されています。

～ 源義経公東下り行列 ～

春の藤原まつりメインイベントである「源義経公東下り行列」は、兄の源頼朝に追われて平泉へ落ちのびてきた源義経主従を藤原秀衡公が温かく迎え入れた様子を再現したもので、総勢約100名が出演し、艶やかな平安装束姿に馬や牛車を交えた絢爛豪華な平安絵巻が繰り広げられます。

～ 弁慶力餅競技大会 ～

源義経に仕えた豪傑「武蔵坊弁慶」に因んで、鏡餅を載せた総重量160kgの三宝を抱えて運んだ距離を競います。全国から集まる力自慢の男達が見せるその様は、怪力と呼ばれた弁慶を彷彿とさせ、会場は大いに盛り上がります。

餅が「力の源」として、古くからこの地域の食文化として深く根付いていることを象徴するイベントです。



関連するイベント

◆ 毛越寺曲水の宴

浄土庭園の遣水に盃を浮かべ、流れに合わせて和歌を詠む、平安時代の優雅な遊びを再現しています。男性は衣冠や狩衣、女性は十二単や袷などの装束を身にまとい、雅な光景が広がります。

昭和58年に浄土庭園の発掘調査で平安時代の遣水の遺構が発見されたのを契機に、昭和61年から毎年5月の第4日曜日に開催されています。

◆ 毛越寺あやめまつり

毛越寺の花菖蒲園は昭和28年に開山堂前に植栽したのが始まりで、翌年には明治神宮から100種100株を譲り受けました。見頃を迎える6月下旬から7月上旬には、現在の300種30,000株が紫、白、黄色と色鮮やかに咲き誇ります。

◆ 平泉水かけ神輿

平成7年9月の東京・深川の富岡八幡宮との交流をきっかけに、町民参加型のまつりとして「平泉水かけ神輿」が創設されました。沿道からの「清め水」を浴びながら、観自在王院跡から中尊寺金色堂までを豪快に練り歩き、「ワッショイ」の大きなかけ声とともに町は熱気に包まれます。



関連するイベント

◆ 中尊寺薪能

月遅れのお盆、8月14日の夕方から中尊寺境内の白山神社能楽堂を舞台に行われます。周囲が篝火で照らし出される中、喜多流の能、和泉流の狂言が披露され、眼前に広がる幽玄の世界を堪能できます。



◆ 平泉大文字送り火

毎年8月16日は、藤原四代公及び義経主従の追善と先祖供養のために京都・東山になぞらえた東稲山に約100メートルの大きな文字が夜空に浮かびます。

その種火は、中尊寺の不滅の法燈からトーチに分火し、法火リレーで東稲山までつないで点火されます。



◆ 毛越寺浄土庭園「法灯会」

送り盆の行事の一つで、浄土庭園大泉ヶ池にたくさんの灯籠が浮かびます。灯籠には、訪れた方々の願いや供養の気持ちが書かれ、思いをのせた灯籠が毛越寺浄土庭園を明るく照らし、本堂では法要が執り行われます。



関連するイベント

◆ 毛越寺萩まつり

毛越寺庭園では、秋を代表する萩の花が見頃となる9月中旬から下旬にかけて、萩まつりを開催しています。境内に植えられているミヤギノハギとシロバナハギ、ヤマハギの3種類計500株の赤紫色などの花が枝いっぱいに咲き誇り、境内に彩りを添えます。



◆ 中尊寺菊まつり

境内の本堂前や参道に菊愛好者らが中尊寺の菊畑で丹精込めて育てた菊の大輪や盆栽菊などが飾られるほか、菊で飾られたお堂や仏塔のモニュメントも披露され、華やかな光景が広がります。



◆ 中尊寺「紅葉銀河」

紅葉が見頃を迎える10月下旬から11月上旬にかけて、中尊寺本堂から金色堂付近までの約300mの参道をライトアップしています。

弁天池の水面に鏡のように映り込む「逆さ紅葉」などが夕闇と静寂の中に浮かび上がる幻想的な境内を演出します。



関連するイベント

◆ 毛越寺二十日夜祭

新年1月20日に行われる「常行堂二十日夜祭」は、約850年前に始まったと伝えられています。

法要の後に常行堂内で奉納される「延年の舞」は、平安時代の数多くの舞を昔のままの姿で今に伝えており、国指定の重要無形民俗文化財となっています。



◆ 中尊寺節分会

招福の嘉例、立春大吉を迎える行事として、毎年2月初旬に中尊寺本堂で開催されます。歳男、歳女そして大相撲の関取を迎え、「福は内、鬼は外」と声高らかに豆をまき、毎年多くの人で境内が賑わいます。

節分限定で授与される中尊寺伝承の「魔滅大師（まめだいし）」の護符は、七難を払い、苦難を乗り越えるお守りとして大変好評です。



◆オープンファクトリー五感市

岩手県南地域の様々な産業の職人達が中心となって工場を開放し、「ものづくり」の裏側を体感するイベントです。

普段は目にすることができない地域を支える産業の現場で、職人の技、工場の匂いや音に間近で触れることで、地場産業の知名度の向上、交流人口の拡大を図りながら、次代を担う人材育成にも結び付いています。

◆平泉ブランド「浄土の風・平泉」への認証

平泉生まれの特産品を他の土産品と差別化する取り組みとして、平泉商工会では平泉ブランド認証商品事業に取り組んでいます。岩手県南地域の様々な産業内の土産品・特産品等の販売を促進するため、「平泉産」にこだわった安心・安全な商品を認証する制度で、認証商品には『浄土の風・平泉』をデザイン化したシールが貼られ、町内土産品店などに並んでいます。

◆日本遺産 みちのくGOLD浪漫

—黄金の国ジパング、産金はじまりの地をたどる—

時代とともに独自の文化や信仰、産業へと昇華し、地域の生活や風土に溶け込んだ『金』と人々の縁を「みちのくGOLD」と名付け、地域の新たな価値や歴史的魅力の掘り起こしを行っています。令和元年5月には、「みちのくGOLD浪漫の地」として平泉町は、宮城県涌谷町・気仙沼市・南三陸町、岩手県陸前高田市とともに日本遺産の認定を受けました。

日本で初めて産出され、「みちのく」とも呼ばれるこの地が生んだ『金』は、中尊寺金色堂を彩り、祈りの対象として人々の心に今もなお光を灯し続けています。



JAPAN HERITAGE
日本遺産